



號 十 五 第
月一十年六十和昭
行 發 日 十 每
行 發 日 十 回 一 月 每
錢 五 金 部 一 價 定 誌 本
錢 拾 六 金 (共 稅) 年
一 才 田 杉 編 兼 行 發
一 〇 七 四 座 區 區 京 市 京 東
社 信 通 盟 同 所 行 發

六周年記念日を迎へて

社長 古野伊之助

今から丁度六年前の昭和十年十一月七日は社団法人同盟通信社の設立認可を得て今日の同盟創立の基礎を確立した記念すべき日である。そこでこの十一月七日を我社の創立記念日と定めた譯である。

今後十年、百年と同盟が益々成長するに伴つてこの日を期して我等が同盟建設の爲に邁つて来た過去を顧み、將來の努力建設に對する覚悟を新たにする日に致したいと思ふ。更にこの機会に御承知の岩永賞の受賞者を表彰し、また永年勤続した諸君の表彰を併せて行ひ度いと思ふ。

今日の同盟が我國を代表する唯一の通信社であることは今更説明するまでもないことであるが、六年前に同盟の結成をみるに至つた経路においては我國の通信界に於て幾多の紆餘曲折を來たしたことは諸君の記憶に新たなる所である當時は三社、四社の通信社が群立して自由競争を續けてゐたのであるが第一次歐洲大戰に際會し、一大通信社を設立することが國の將來のために唯一の方途であると云ふことに漸次朝野の意見が一致しつゝあつたのであるが、現實の狀態を解消するには幾多の歲月を要

したのである。かくて滿洲事變が轉機となり、最後に残つた聯合と電通との合體によつて強大なる國家代表通信社同盟の設立となつた。茲に新しく諸君の注意を喚起したいのは同盟今日の組織である。前社長岩永氏が心血を注がれて來た同盟の組織、これは最近作られた岩永裕吉君なる傳記の中に良く示されてゐる通り、あくまで國家本位の不滅な金字塔である。

最近新聞紙上で御覽の通り英國のロイテル通信社は組織の變革を行つて居る、その内容をみると六年遅れて同盟のまねをして來たに過ぎない。更に世界第一の通信社として數へられる米國のA.P.の如きも同盟の持つ種々な特徴をまねて來た。即ち新聞組合主義とは云ひながら、これを解放的な統制制度に改めて來た。

またこのA.P.通信社が最近科學の進歩に伴つて徹底的に無線を利用すると云ふやうなことは同盟が先してやつて來たと思ふ。アメリカのA.P.はこの日刊新聞に對する門戶解放主義を執らなかつたために、二、三の競争通信社の發生を促すに至つた。また無線電信のニュース所有權と云ふものに餘り

に固執したために今日まで無線電信による對外放送若くは對内放送と云ふことについてとかく懷疑的な立場をとつて來たのであるが、これも最近に至つて同盟が率先これをを行ったので無線電信による對外放送を開始せざるを得なくなつた。さうしてまた放送局にニュースの放送をやらせる仕組にせざるを得なくなつたと云ふやうなことは何れも同盟の機構の上に既に敷衍してしまつたと謂ひ得るのである。

この意味においてわれら同盟は近代的世界通信社の魁けだと斷言しても決して間違ひではないと思ふ。わが同盟に組織の上においても仕組においても今日の世界内外の情勢ににらし最善の組織を故岩永社長が我等のために遺して下されたと云ふことは今更乍ら痛感してその後起つて來る世界各通信社の情勢に見て誠に感慨無量なるものを感じるのである。

而して今日の時局は國家の存亡興廢の竿頭に立ち、刻々に最後の重大なる危局に突進してゐる。この時機にこそわれらの同盟が本當に力一ぱい國內に對しては全世界に對してもその使命を果し機能を發揮せねばならぬ。千歳一週の國家の運命を決すべき時機に國と共に戦ひ國と共に働きて國と共に築くための同盟であるかと考へると共に益々我等三千の一人々々の双肩にかゝつて居る任務の重きことを考へる。

重た時局下我々が擔當する任務の如何に重大であるかを考へ、今日この六周年を迎へるに當り、再行に邁進して戴き度い。

同盟創立六周年記念 表彰並に慰靈祭舉行

菊花薫る十一月七日は早くも我社の創立六周年に相當するので、當日本社では同盟創立六周年記念式典を八階會議室に於て盛大に舉行。午前九時開式、先づ宮城遙拜出征將士武運長久並に戰歿將士英靈に感謝謝禮の後別項の如き古野社長の挨拶あり、次いで岩永賞授與並に永年勤続者の表彰式を舉行。社長から賞状並に表彰状が各人に授與され次いで塚村岩永賞受賞者代表並に吉川被表彰者代表の夫々答辭があつて閉式午後二時からは物故社員慰靈祭を神式により執行、有意義裡にこの記念日を終了した。

時局下この記念日を迎へ我々は我社の異常なる發展を祝すると同時に我社の使命の愈々重大なるを思ひ、この機に一段と同盟精神を昂揚し報道報國に邁進せねばならぬ。

岩永賞受賞者並に勤続功勞者氏名は左の如くである。

勤續功勞者
京都支局長 福井 輝三 30年
名古屋支社長 吉川 義章 29年
編輯局勤務社員(部長待遇) 住谷 金吉 27年
松山支局長 岡本友三郎 27年
總務局庶務部長 杉田 才一 26年
總務局庶務部長 結束武二郎 25年
總務局參事 岡崎幸次郎 24年
通信局發送部長 山本 政常 同
總務局人事部長 伊藤 勝司 同
北支總局總務部長 鈴木幸次郎 同
東北支局勤務社員 小野 正雄 同
調查局勤務社員(部長待遇) 勢多左武郎 23年
大阪支社總務部長 高橋 勇 同
石門支局長 渡邊 幹 同
經濟局勤務社員 村木 政吉 同
中支總局勤務社員 山田清一郎 同
山田清一郎 同
鷹嘴 壽 22年
麻生 林策 同
福岡支社長 櫻 鐵三郎 同
金澤支社長 櫻 鐵三郎 同
經濟局勤務社員 小野勝三郎 同
經濟局長 塚本 義隆 21年
總務局長兼總務局經理部長 石部 幸次 同
熊本支局長 河邑 光城 同
秋田支局長 藤澤民之助 同
大阪支社經濟部長 秋山 操 同

物故職員慰靈祭
岩永前社長外二十八柱の同盟物故職員慰靈祭は同盟創立六周年記念を卜して十一月七日午後二時より本社八階會議室に祭場を設け神式により嚴肅裡に執行された。
定刻被主被詞を白すれば各遺族並に齋主、社長以下一同起立し、莊重なる奏樂裡に招魂、獻饌を了し齋主の祝詞、古野社長祭辭に次いで齋主、古野社長、森田滿洲國通信社社長、岩永遺族代表、各常務理事並に各參與、職員代表鷹嘴通信局長夫々玉串を奠り拜禮を終れば再び警蹕普搔奏せられ撒撒、泣魂に次いで山田常務より遺族に對し挨拶があつて茲に滞りなく物故職員慰靈祭を午後三時終了した。
高遺族はそれより日本映畫社においてニュース映畫を觀賞午後五時半からエロワンに於ける招待晚餐會に出席故人の思出も新に和氣霽々裡に散會した。

慰靈祭參列遺族名
岩永 華子 岩永 照子
鈴木須美江 花房 八重
松田 芳夫 金子 虎吉
丸山 保平 山崎 淳水
佐藤 保松 古野 勝吉
松田 亮治 青木 勝子
井上 初枝 齋藤 佑多
山岡 カネ 橋口市之助
藤原喜世雄 種井孝太郎
藤倉きく子 坂本 コト

岩永賞受賞者
調查局長(華府駐在) 加藤萬壽男
伯林支局長 江尻 進
編輯局勤務社員(倫敦駐在) 長谷川才次
總務局業務部長 塚村 敏夫
以上四名

總務局業務部經濟主任 松本 兼吉 同
編輯局勤務社員 上原 正吉 同
經濟局勤務社員 吉田 辰雄 同
大阪支社勤務社員
井上新太郎 同
大川幸之助 同
石田 貞一 20年
名古屋支社勤務社員 古田 二郎 同
平壤支局長 岡本 一男 同
以上三十三名



政變の今昔

萩野伊八

政變の外貌も實質も昔と今とでは全く一變した。何しろ昔はそれ...

祭詞

本日茲ニ祭壇ヲ設ケテ我同盟通信社物故職員ノ第一回慰靈祭ヲ執行...

今や政機一度び動けば政經、社、會は勿論編輯、通信兩局一丸とな...

賞状 伯林支局長 江尻進 君ハ昭和十四年三月伯林支局長ト...





職員會報

我々は更に前進せん

幹事長 小 寺 巖

職員會は結成後約四ヶ月を経過し、此間において本社始め全編支社局から提出された四百餘の建議案を通じて、全社員の社務の刷新並びに厚生施設の改善に關する熱意を披瀝しました。さうしてこれらの建議案は重點主義によつて逐次、崑山常務以下關係局を通じて社長の御審議を願つたのでありますが、その結果我々の希望は多數容れられて、別項報告の通り着々と實現されております。

かくて職員會結成の目的の「一」たる「上意下達、下意上達」は一應軌道に乗つて所期の方向に進みつつありますが、職員會の任務はもとよりこれを以て充分に果された譯ではなくこの氣運に乗じて更に一歩力強く前進し度いと思ひます。このためには最下部組織の「一班」を出來る限り活潑に働かしてその存在意義を發揮せしめ、そこにおのづから盛上る革新氣運を推進源として職員會の使命達成に邁進せねばならないと思ひます。

職員會の結成された當時と今日とは我國の時局に格段の相違があり、當時の我々の機構、機動力は至は仕事の運籌方法等のなかには必ずしも今日の未曾有の非常時局に適合しないものもあります。これらの事項に就いて聚智をあつめて眞剣に考慮し建議すること、また我々に課せられた重大任務の一つであります。また社の構成分子

△社業の改善關係

海外放送機能強化案

放送局の設置並に大陸部の擴充

右二案についてはその主旨は同感なるも實行上直に建議の如き案を取り入れることは困難なるものがあるため九月十日より通信局參事岩本君を主催者とし編輯、社會、整理局長、同次長、政經、社會、整理査閱、外信、東亞、大陸、地方の各責任者及び英文海外部(全員)出席し放送内容の改善及び此の會合に依り海外部員に對しては國內諸事象に對する認識を深むると同時に取材各部門に對しては放送の重要性を認識せしめつつあり、此の

特に主務者會議を召集するより、も電送寫眞を現在通り送附せしめ、缺陷ありと認むる支社局に技術者を派遣故障の修理をなし同時に技術の指導をすること。

(ロ) 發受信共熱練せしむるため技術者の交流を行ふ。人事の異動をなすといふことに決定。

(ハ) 電送係養成については新たに工夫されてゐる電送機の關係もあり出来るだけ多く養成し置く必要ある故人事と打合せの上養成するが更に寫眞技術をして電送もなし得る様に養成の途を開く要ありと決定。

(ニ) 携帯用電送機運用についてポータブル電送機は出来るだけ

山の家設置や互助會への融資

可決した建議案

我々の建議案が上通して次のやうに實行に移されることになつた。澤山の建議案のうちこれがすべて實行されるとはもとより考へてははげしくも次の各項が陽の目を見たことは大きな喜びである。我々は社の上部の意を體して更に社業の發展に努力せねばならぬことを痛感するものである。

研究會をして放送に就ての企画を始め各官廳に對して放送ニュースに對する特別考慮を拂はしむる原動力たらしめることに努力することとし、内容の充實をはかつた上漸次機構改革に進展せしむる事尙大陸部増強のため人員補充については漸次實施しつゝあり。

編輯局長直屬スタッフ設置

之れは適任者を得なければその目的を達成し得ず却つて横歩きする人間の増員をはかることとなつては害あつて利なき結果を招來する虞れあり、當分の間は記事研究會を活用しニエニスに企画性を持たしむると同時にニエニスの蒐集では編輯局の機構改革にまで進ましめ自然に盛り上つて來る意見と實情とに依つて此の問題の解決を計る。

電送に關する件

(イ) 主務者會議召集の件

重要地點に設備し置く必要あるため大阪、名古屋、仙臺にも至急設備すること。

(ホ) 電送係を寫眞部より離して通信局に移管するの件は連絡上よい結果を齎らすと信ぜられずといふことに決定。

但しフアクシミルを實施する場合は改めて利害得失を研究する方針である。

夜間タイプ能率向上について

之れについては最近上海、北京に人をとられたので熟練者少なくなつてゐるため多少人員の増加をはかる様にすることを養成すること決定、目下訓練中。

△厚生施設關係

自動車問題

編輯、通信局の意見の通り。即ち部を置く必要はないが運轉手の運用と代用燃料の事を考慮する一方「通ひ」「送り」の自動車

について再検討すること。從來の保障制度を廢し社の直營として既に現狀に適應せる方法を実施しをれり。

住宅問題

(一) 住宅營團に對しては既に同盟より二百戸の申込みをなしたる。

(二) 編輯、通信局より總務局へ申出ありたる件即ち適當なる何軒かを同盟が社員に代つて家主と契約し轉讓により家ととなりた場合の如きも家主が他に貸さざるやう所謂「同盟住宅」として確保することは時節柄名案と思はれるに付早速厚生主任において手配することとせり。空家の間家賃は勿論社負擔のこと。

社員醫療施設に關する件

ボーイ、タイプ、送話係に對し年二度強制健康診断をなし病氣を早期に發見するの件につつ編輯、通信兩局より總務局へ希望申出でありたるも本件は本年度において職員健康保險加入者全部に對し健康診断をなすことになりをれり。尙年一度社員全部に對し強制健康診断をなすことに決定。

厚生保健の家に關して

社員俱樂部並に運動場設置の件

(一) 手近かな所より順次實行に移すこととし差當り運動施設としてピンポン臺三臺を設備することとし武田體育部次長においてこれが準備中。

(二) 厚生保健「山の家」については箱根(二の平)の地を第一候補地として敷地、建築費並に設計につき實地に當つて調査すること。(以下五頁へ)

今後は班長より充分な意見の開陳ありたい、それには班常會を活潑に開き職員會に與へられた使命を果すべきだと希望し自由討議に入つた。

永松、松本、本田三君より金融問題について「貯金會に加盟して問題の今後重ねて互助會より融資出来るか、融通を乞ふ場合は病氣やその他の理由のないときも必要とするところがある、かゝる場合如何にするか」との質問あり小寺幹事より經理部に取次くこと答へ、大屋君より出先を澤山もつてゐる社會部は部會を常會に代へてゐると報告の後班長は部長は如何と云ふ規定であるが改訂しては如何と重大提議あつた。これに對し伊藤君賛成したるも豊島、西村、芥川、八木君等より「部長は職責上意見を上通せしめ得てをり、部長以外のものと云ふ規定を變更するは不可」と猛烈な反對あり結局規約のまゝとするに決したるに過勤料について西村、大塚君より「現在の過勤料は不合理であり、改訂すべきである」と熱心な意見があり、班常會の活動については今後一定の案件を提示してそれを中心として協議することを申合せ五時十分散會した。

- 協議員異動**
- 新 舊
- 進藤陽吉郎(總務局板谷幸太郎同)
- 班長異動**
- 新 舊
- 中村喜八郎(編輯局) 知久義雄(同)
- 寺尾要次郎(同) 高木凱人(同)
- 酒井 忠男(經濟局) 永峯正樹(同)
- 芥川 典(編輯局) 塚原俊郎(同)
- 田中 盛文(通信局) 江藤武臣(同)
- 伊藤勝司(總務局) 板谷幸太郎(同)
- 千葉 愛雄(編輯局) 高橋辰馬(同)
- 中村 信(調査局) 黒澤俊雄(同)



本社班長會議

十月三十日午後四時半班長會議を開催、大平副團長以下出席、副團長より時局の緊迫に鑑み青年團も非常時の用意を整へて置く必要を説かれ、青年團は先頃以來防火防毒訓練を行つて来たが更にこれを組織化し各班別に班員全部を夫々消火、給水、搬出、警備、連絡係に割當て命令一下各々その部處につくようにしたので、右訓練を十一月九日午後二時から行ふ。尙ほその實行委員として十名の班長を任命し次いで同訓練終了後秋葉特派員の南洋方面視察講演會を開いて後この程達成したピンポン臺の始球式を行ふ旨傳達。

走る教室開設

關内支社

十月二十六日曜日を利用して、團員の身心錬磨のため初の試みとして走る教室を開設、塚本團長以下非番の全團員は早朝支社に集合國民儀禮の後直に、北九州重産地帯縦走の移動教室九軌電車に乗込んだ。車窓を打つ快い朝の潮風を身に受けて、關門港に在泊の大小船舶を教材にして科學する心は弾む。

本社の鼠取奉仕

同盟本社の鼠害は夙に定評のもので重要書類の保存並に衛生上の見地からこれ等鼠群の徹底の掃は從來より要望されて居たが、本社青年團では十一月一日の興亞奉公日を期し各班別に部署を定め全社屋に亘り驅鼠薬を要所に撒布一齊鼠取を行つた。その結果なんと二十四匹を數へる好成绩を挙げ今後とも時々これを續け徹底的に鼠の驅除を期す。



青年の聲

緊張の空氣

本社第二十五班 池田契雄
社内に騒然たる、然し緊張の空氣がみなぎつてゐる時、我々は班長の指令に依り各自それらの職場に配置された。と云ふといかにも物々しく、空襲を受けたかの様に感じられるが、實は空襲騒ぎではなくて政變のためであつた。何時の政變においても日まぐるしく活躍せる者は云ふ迄もなく我々報道機關にたゞさはつてゐる者である。あの熱と信念の報道精神に燃えた、生きた姿を私は此の度の政變においても見、且ついかに報道報國の使命達成が重大なるかを痛切に感じた。組閣本部のあのテント村で握飯を片手に、片手でペンを走らせるあの姿、せまいホテルの一室で背を合はせて寝た時の體験、私は古野社長の言はれる「社員結盟の精神に燃え、持場職場が異ならうとも年齢が相違しやうとも一丸となつて報道報國に邁進せるのみ」と言ふことを感銘したのであつた。私のみならず幾多若き青年の向上心は嫌が上にも湧き上らされたのである。私はこの政變に於て得られたこの尊貴感を生かし、報道使命達成のため社業に邁進しようと思つた。

冬

本社第二十四班 坂本孝則
清麗は晩秋が過ぎて冬になる頃私達は何となく物寂しい感じに打

各支社局青年團員に告ぐ

團報原稿をどしどし送つて下さい。御顔は見ませんがお互にペンで親しみを深めませう。締切は毎月三日です。

菊の花が寂しい晩秋の夕方の景柔い日差しを體一つばいに受けて岡の上から遠くの景色を眺がめた時、冬の訪れを感じられる。木や草が寒い北風におびえて霜に包まれた冬の朝、村々の木と云ふ木は皆、空に凍りついて見える、雀が人家の屋根の上で寂しくチウチウと鳴つて私達を何故か沈痛な氣分にさせる。

延び行く團

本社第二十五班 武田義治
團員諸君よ苦を恐れるな。些少

悦び

本社第二十一班 會我好文
もう何時頃だらう——頻繁に通

「職場より」

原稿募集

△内外情勢の緊迫化は同盟の持つ使命を益々加重し、私達職場も夫々其幅と深さを日一日と膨脹しつゝある。
△戦時下同盟三千の鐵石の備へが一段と要望されてゐるが、それには各職場々々の緊密なる連絡から全きを期せねばならない。
△大同盟を更に飛躍せしめる一助にも其各職場の立場から眞摯な叫びを集録することにした。
△本社も各支社局も職場に對する緊張、熱情は異る筈はない。
△次號から職場の聲をよりよく發表し度いと思ふ。ふるつて御投稿下さい。但し紙面の關係上十五字詰三十行程度のもの。

△十七年版「時事年鑑」の件

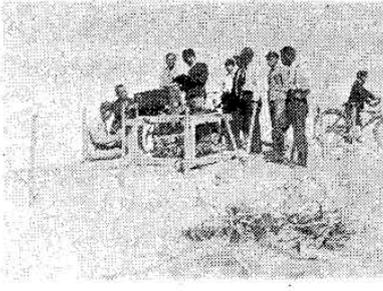
豫て準備中の昭和十七年版「時事年鑑」は着々進行、大體十一月下旬出来の豫定でありますが、本年度は用紙統制強化、日配設立に伴ふ配給機構の變動等の諸條件を考慮し本社並に總支社局に於ける販賣其他に就いても適正眞滑な手配を致したいと思ひます。
尙御實價段並に社員拂とも昨年度より割高となつてゐますが、之は裝訂の改善其他に依る製作費値上りの爲めに付御含置き下さい。

- 一、定價 三、〇〇
- 二、體裁 B5版、紙單紙
- 三、總支社局 定價の二割引
- 四、送 料 當方負擔、但し特別の費用を要する外地向の分に對しては總支社に於て適當に費用分擔の事
- 五、社員拂 定價の二割引 (二圓四〇)(二、四〇)

無電の避難訓練

新潟支局の防空鐵壁陣

新聞休日十月十七日は恰も新潟地方防空訓練の第六日。新潟支局では短波無電の避難訓練を実施した。此の日天気晴朗。「午前八時支局隣接の瀨田中町に数箇の焼夷弾が投下され警防團、自衛團の必死の活動にも拘らず数ヶ所より火災を生じ風下の大畑町一帯は危険



に類した」との防衛司令部の訓練想定に基き午前九時新潟支局も海岸の安全地帯へ避難を決意、負傷(想定)の皆川オベレーターを残し支局長以下全員十二名三臺の自轉車にオートダイン、蓄電池、アンテナ用竹竿其の他必要物を乗せて支局を出発したが海岸に至る道路は實戦然の自衛團の訓練で非常な混雑の中を一軒弱の海岸の砂丘に辿り着いたのは九時二十分、直ちにアンテナを張り受信準備終了迄僅か十五分九時五十分、耳慣れたEKBを難なく捕へ次で獨軍オデッサ占領第一報を受信した。感度四、ヒツシグ稍強、時を移さずこれを翻譯一つは笹川準社員に依つて電話局(長岡中央新聞社)一つは石川雇員に依つて地元新聞社へ夫々傳達された。此の間訓練

空襲警報に見舞はれた事二度、一同非常時対策に十二分の自信を得たのであつた。

斯くて正午訓練を終了社員夫人連甲斐々々しい炊出しの握り飯、野外炊餐の隣賑が出来る。一同小春日和の砂丘に陣を作つて佐渡ヶ島を指呼の間に眺め乍ら和やかな食事はピクニックと云つた気分となつて午後三時引上げた。

岩永賞受賞者 代表答辭

岩永賞受賞者ヲ代表シテ一言御禮ノ御挨拶ヲ申上ゲマス。
本日コノ輝カシイ同盟創立記念式典ニ際シ小職等四名ガ岩永賞授與ノ光榮ニ浴シマシテ寔ニ有難ク謹ンデ御禮申上ゲマス。

(氏井福續 勤年十三)

マスルニ小職等ノ行ヒマシタ事柄ハ唯單ニ同盟社員トシテ爲スベキ職責ヲ盡シタニ過ギナイノデアリマシテ斯クモ御鄭重ナ表彰ニ預リマシタコトハ唯々感激ニ堪ヘナイ次第デアリマス。私共ハコノ無限ノ慶ビト感謝ノ念ヲ胸中深ク刻ミ今後益々社務ニ専心シ大同盟建設ノ爲メニ微力ヲ盡シ以テ社恩ニ報ジタイト念ジテ居リマ

ス。簡單ナガラコレヲ以テ御禮ノ言葉ト致シマス。
昭和十六年十一月七日
岩永賞受賞者代表
塚村敏夫

勤續者被表彰者 代表答辭

本日茲ニ同盟通信社創立ノ記念式典ニ際シ勤續者ノ表彰式ヲ舉行サレ社長カラ御懇篤ナル御嘉賞ノ御言葉ヲ承フシ更ニ生等二十年以上勤續者三十三名ニ對シ表彰狀ヲ賜ハリ感激ニ堪ヘマセン。

私共ハ永イ間勤メサセテ頂キ大過ナキヲ得タニ止リ何等取リ立テ申ス程ノ功績モナク今日ニ至ツタノデアリマス。
若シ多少ニテモ御褒メニ預ルコトアリトセバソレハ電通聯合同盟ノ各社長ヲ始メ重役各位ノ御庇護ト諸先輩並ニ同僚ノ御指導御援助ノ賜デアリマス。



(氏村塚 表代者受賞永岩)

ノ夢想ダモシナカッタ望外ノ御恩惠デアリマス。
私共ガコノ永イ間父母ニ仕へ妻子ヲ扶養スルコトノ出来マシタ事ハ實ニ社恩ノ宏大ナルニ依ルモノデアリマシテ私共ハ之ニ對シ其萬分ノ一モ御報恩出来ナカッタノニ今茲ニ反テ勤續者トシテ表彰サレマスコトハ慚愧ノ至リデアリマス私共ハ今後モ力ノ續ク限り體力ノ許ス限り大同結盟、報道報國ノ大使命ニ邁進シ以ツテ今日ノ御高恩ノ萬分ノ一ニ酬ヒンコトヲ誓ヒ茲ニ被表彰者一同ヲ代表シテ謹ンデ感謝ノ意ヲ表シマス。
昭和十六年十一月七日
勤續者被表彰者代表
古川義章

南支便り

時局の脚光を浴びて一躍膨脹した南支總局では興亞奉公日の十月一日丁度總局開設一周年に當るの、恒例の皇居遙拜、護國の英靈に黙禱、出征將兵の武運長久祈願の後、作軍報道部長より一時局と報道戰士の覺悟について時局に亘り有益なる訓辭を聴き報道戰士としての覺悟を更に新たにした



職員家族に福音
今般我社職員及其の家族の爲めに從來の特約讀賣診療所及順天堂

醫院の外に東京慈惠醫科大學附屬東京病院との間に特約を致しましたから左記御了承願ひます。
一、診療料金の支拂方法
診察の順天堂醫院等と同様
一、診察券
一、病院所在地
芝區田村町五ノ一〇(市電田村町四丁目下車)
尙契約の大事は入院料規程の二割引、内服薬、手術料、理學療法等は職員健康保険の料金と同様。

渡邊連絡員戰傷

今次魯南作戰に従軍中の同盟通信社連絡員渡邊兵作君(一九)は五日午後三時五分九山附近の戰鬪で胸部、腹部に貫通銃創を受け野戰病院に收容手當中

社歌懸賞募集

我社三千の職員が唱和して同盟精神を昂揚し士氣を鼓舞するに足る社歌を本創立記念日の住き日を機に一般職員から懸賞募集します。就て左記要項御諒知の上奮つて懸賞して下さい。
一、歌詞同盟精神を誦ひ我社の擔ふ重き使命と大なる任務を強調せるもの
四節以内(一節は四節乃至六節のこと)
一、作品は同盟職員自作のものに限る
一、原稿には匿名を用ひ封筒には所屬社局及び氏名明記のこと
一、締切 本年十二月末限り
一、宛名 本社文書部社歌懸賞係宛
一、選者 本社詮衡委員
一、賞金 一等當選一篇 金五百圓 佳作數篇を薄謝金呈す
一、發表 二月號社報に於て行ふ豫定



婦人講習會開設案

婦人の實生活上先づ裁縫の方が必要ならんと思惟するも一般の希望が生花と書道との事なれば差詰り生花から實施、毎週木曜日午後六時より、八階會議室に於て家元押川如水氏を講師として行ひ十月二日迄に受講申込者六十二名あり謝禮金は社負擔。
社員金融施設
不時の災害或は病氣などにより眞に困窮する者に限り經理部に於て特別考慮することに決定。
結婚による増進並に祝金贈呈の件
結婚により本俸を増進することは賛成し難いが、結婚祝金贈呈の趣旨には異議なく、贈與金額は結婚費援助とせず祝意を表する意味に於て五十圓を贈呈することに決定。
同盟互助會規程及細則改正に關する件
既に決定十一月一日より實施して居る。
互助會購買部設立案
趣旨には賛成なるも現下の時局に鑑み物資の大量購入或は輸送は極めて困難ならん。又百貨店と特約し購買券を發行することは浪費を促す結果となる虞れあるのみならず種々の懸弊を伴ふ惧れがある。ので厚生主任においてなほ實施の利害得失を調査の上適當なる實施方法を考究することとせり。

△德島支局移轉
今般德島支局は左記の所へ移轉
德島市新藏町一丁目十二番地
社同人同盟通信社
德島支局

互助會規程の改正 贈呈金増額等考慮

時局の進展、社業の發展は同盟互助會規程及細則の改訂を要請しつゝあつたが、今回愈々右改正を斷行、十一月一日より實施されることになつた。就中贈呈金の増額は互助會員にとり一様に福音と云へよう。

改訂要旨を摘記すれば左の如し。

同盟互助會細則

- 第九條 會員が贈與の適用を受くべき事項及金額は當分左の如く定む(但しAは拂込ずみ會費二十四回未滿の會員に又Bは拂込み會費二十四回以上の會員に適用するものとす) 折込内蓄額
- (イ) 會員の結婚
A 三十圓 B 五十圓
(二十圓) (三十圓)
- (ロ) 會員の出生(一子につき)
五十圓 (五十圓)
- (ハ) 會員の入替及應召
五十圓 (八十圓)
- (ニ) 會員の退社
自三十圓 至五百五十圓
(二十圓) (四十圓)
- B會員が退社したる場合の其贈與金は入會後一ヶ年に付十圓の割合にて計算し最高百五十圓を以て限度とす(一ヶ年未滿は一ヶ年と看做す)但し不都合の所爲ありて退社したるときは退社贈與金は贈與せざるものとす又死亡による退社に就ては本項を適用せず
- (ホ) 會員の病氣
連續病缺左に該當したる場合(一)三週間に及ぶ場合
- (二) 更に三週間に及ぶ場合
合 五十圓 (八十圓)
(四十圓) (六十圓)
- (三) 更に一ヶ月間に及ぶ場合
六十圓 (八十圓)
(四十圓) (八十圓)
- 但し連續病缺三週間に及ぶも多額の治療費を要し、其の事實を證するに足る醫師の證書を提出したるときは病癒、其他の事情を斟酌の上右期間内と雖も委員會の決議ある場合には右贈與金の範圍に於て適宜贈與することを得るものとす
- (一) 會員の災害
自二十圓 自三十圓
A至百圓 B至二百圓
- 天災地變風水害火災其他特殊事情による災難に對して其の輕重に應じ右の範圍に於て委員會の決議を経て適宜見舞金を贈與するものとす
- (ト) 會員の死亡
A百五十圓 B二百圓
- B會員が死亡したるときは前記Bの香料の外に入會後三ヶ年を超ゆること一ヶ年に付五十圓の割合にて増加贈與するものとす(一ヶ年未滿は一ヶ年と看做す)

- (チ) 會員家族の死亡
(一) 會員の配偶者
A 百圓 B 二百圓
(七十圓) (百五十圓)
- (二) 會員の實父母及養父母
五十圓 (百圓)
- (三) 會員の子
1 學齡に達せざるもの
四十圓 (五十圓)
(三十圓) (四十圓)
- 2 學齡以上に達したるもの
五十圓 (八十圓)
(四十圓) (六十圓)
- (四) 會員と同一戸籍に在る祖父母
三十圓 (五十圓)
- (五) 會員と同居せる實兄弟姉妹
二十圓 (三十圓)

- (リ) 會員妻子の入院
自三十圓 自五十圓
A至六十圓 B至百圓
(三十圓) (五十圓)
- 入院三週間に及ぶ以上又は入院に準ずべき事情三週間に及ぶ以上の場合に限り醫師の治療費領收證を提出することにより病癒其の他の事情を斟酌の上右範圍内に於て適宜贈與することを得
- (ヌ) 會員外の職員冠婚葬祭委員會の決議により適宜贈與金を支給することあるべし
- 第十三條 本細則は昭和十六年十一月一日より改訂之を施行す
- 法人 同盟通信社

人事

海外へ

- 南支
陸奥陽之助(通信局海外部長兼編輯局長)
文主任
- 知久 義雄(編輯)
- 中支へ出張
高倉 正夫(經濟)
- 盤谷
永峰 正樹(經濟)
- 北支へ
豐田 清(編輯)

海外より

- 中野 正光(南支臨時在勤)
- 編輯
金本 重俊(中支)
- 編輯
小座間 茂(編輯局査閱部長)

國內

- 新潟支局長 森田 勇(通信)
- 高知支局長 大西保太郎(編輯)
- 大分支局長 岡本友三郎(大分支局長)

- 古賀 尙道(編輯)
末次 遜(關門)
長尾 義男(京都)
社員とす
木村均容(通信)
笠原 義榮(經濟)
今井 てる(同)
- 准社員とす

新入社

- 萩原 貞美(大阪)
河野 寛治(經濟)
齋藤 實(通信)
西村 瑜己男(編輯)
安倍 龍一郎(同)
香中 喜七郎(同)
林 義人(平壤)
石割 淳一郎(通信)
山崎 春夫(同)
内牧 隆三(神戸)
福島 早市(經濟)
西澤 壽一郎(通信)
福田 武(同)
岩野 淺勝(同)
矢野 安造(通信)
栗栖 平吉(同)
松平 豊吉(同)
三宅 清(徳島)
- 以上社員試用
藤井 昌子(大阪)
龍田 美代子(同)
佐藤 八重子(總務)
歸來 シズ子(大阪)
雜賀 美代子(同)
手塚 康守(編輯)
増田 トヲ(總務)
長井 登美(釜山)
- 以上準社員
小森田 一記(調査)

退職

- 岡村 二一(編輯局長兼社務部長、整理部長)
- 波多 尚(ハノイ支局長)
- 板谷 幸太郎(總務兼調査)
- 宮城 清(經濟)
- 深見 時雄(長崎)

- 青島 秀徳(編輯局參事)
池見 博吉(廣島)
雜賀 美代子(大阪)
吉岡 須磨治(調査局調査部 旬報主任)
- 小倉 虎治(調査局調査部 旬報主任)
- 廣岡 賀津(神戸)
- 山崎 武彦(鹿兒島)
- 松川 三郎(大阪)
- 大川 正三(同)
- 萩原 貞美(同)
- 齋藤 實(同)
- 西村 瑜己男(同)
- 安倍 龍一郎(同)
- 香中 喜七郎(同)
- 林 義人(同)
- 石割 淳一郎(同)
- 山崎 春夫(同)
- 内牧 隆三(同)
- 福島 早市(同)
- 西澤 壽一郎(同)
- 福田 武(同)
- 岩野 淺勝(同)
- 矢野 安造(同)
- 栗栖 平吉(同)
- 松平 豊吉(同)
- 三宅 清(同)
- 藤井 昌子(同)
- 龍田 美代子(同)
- 佐藤 八重子(同)
- 歸來 シズ子(同)
- 雜賀 美代子(同)
- 手塚 康守(同)
- 増田 トヲ(同)
- 長井 登美(同)
- 小森田 一記(同)

その他

- 大橋 文代(編輯)
- 藤文代子と改姓
徳永 謙介(福岡)
- 徳永 策助と改名
- 横田 實(南支總局長)
- 八ノ支局長、西貢支局長兼務
鈴木 幸次郎(北支總局華文部次長)
- 北支總局總務部長
猪股 芳雄(北支)
- 北支總局華文部次長
津隈 敦士(南支)
- 海口へ
塚本 貞之助(北支)
- 西貢へ
大星 石松(杭州支局長)
- 南京へ
彭 銓 進(中支)
- 稻葉 重太郎(同)
- 小島 芳雄(同)
- 平田 又次(北支)
- 社員とす
池田 時代(中支)
- 桂 玉枝(同)
- 藤野 幸二(同)
- 萩野 秋子(同)
- 藏崎 幸子(同)
- 藤田 幸子(同)